

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370700447		
法人名	医療法人社団 開会		
事業所名	グループホーム ると		
所在地	熊本県天草市下浦町2090-7		
自己評価作成日	平成21年11月10日	評価結果市町村受理日	平成22年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4370700447&amp;SCD=320">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4370700447&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成21年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『最期は自分が住み慣れた場所で。そして自分の好きな事をして最期を迎えたい』この思いから私たちのグループホームはターミナルケアまで取り組んでいます。その場限りのお付き合いではなく、最期を迎える時に「ここ(ると)でよかった」と感じて下さるよう、心のこもったケアを今後も実践していきたいと思ひます。  
「ゆったり 楽しく 仲良く」の理念のもと、入居者の方とスタッフが同じ時間の中で支えあいながら穏やかに過ごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

覚えやすく、分かりやすい理念を作って欲しいとの家族の要望を取り入れ「ゆったり、楽しく、仲良く」を利用者本位の考えに立ち、職員全員で検討されて創られ実践されており、利用者や家族の信頼感を得ている。施設の出入り口等にはセンサーはあるものの、施錠はしてなく利用者が出入りしても、行動を制することなく、後ろからそっと見守り、自由に行動することが出来ている。  
重度化や終末期の取り組みも、家族の要望を十分に受け入れ、関連施設との連携を図りながら、「ると」での最期で良かったと思ってもらえるよう、全職員が毎日のミーティングで対応について確認し合っている。「見守り、気配り」は利用者、家族に安心と安らぎを与えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったり、楽しく、仲良く」の実現に向け、全職員で取り組んでいる。	以前の理念を分かりやすい言葉に変えて欲しいとの家族からの要望を受け、全職員で考えた「ゆったり、楽しく、仲良く」を掲げ、利用者、家族、職員が共有して実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催される行事等には積極的に参加できるよう支援している。	地域での行事に積極的に参加するように、努力をされているが、家族、地域の理解がいま一つ得られていない。利用者の出身地以外の行事にも参加したいとの家族の要望も聞かれた。	地域住民や家族の理解や協力を得られるように、認知症に関する啓発活動に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で、利用者の事例報告を行い、認知症状の理解や支援方法を報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での内容は、全職員に随時報告し、協議の場を持つようにしている。	2ヶ月に1回開催される会議には、利用者や家族以外に市役所の担当職員、公民館館長、民生委員(老人会代表)などが参加され、「と」の取り組み状況や認知症に関する事例等を報告し、参加者の理解を深めるように努力されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の開催する研修会に参加したり、質問事項等も随時メールにて問い合わせたりして、協力関係を築いている。	市役所が開催する研修会にも積極的に参加され、天草地域のグループホームで使用する、ケアプランやアセスメントシートの統一書式の作成を行ったり、他の施設の交流も図られている。	介護サービス情報の公表が本年度から始まり、統一した書式の作成は、研修や情報の交換を行うときに、効果を発揮するものと思います。積極的な意見交換が期待されます。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を安易に正当化せず、身体拘束廃止に向けたサービスの提供に取り組んでいる。	身体拘束は行っていない。他の施設や新聞等で発表される事例等を利用して、職員の研修を行っている。職員の思いも、身体拘束を絶対にしないケアを目指し、日々取り組んでおられる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する新聞記事等は、全職員が必ず目を通し、ミーティング等で協議している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて活用できるよう、ミーティングを利用し学習する機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	分かりやすく説明を行い、十分に理解していただいた上で契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、相談に対する窓口を設け、受け付けた場合には全職員で検討し、改善されるよう努めている。	家族会や面会の時に、家族の意見を聞き、全職員が共有できるようにされている。遠方の家族に対しても、電話や手紙で連絡を取り、意見の吸い上げに努力されている様子が窺える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に意見や提案を出し合い、反映されるよう努めている。	毎朝行わるミーティングや、月に1回行われる管理者が議長を務める全員参加の会議では、積極的に意見や提案が出されている。1・2号館の意見を集約しグループ長へ提案されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課、目標管理シート等を用いて常時状態把握に努め、環境整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修には積極的に参加し、個々のレベルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会天草ブロックにおいて、勉強会や相互訪問等の活動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時には十分にお話しをし、不安を取り除けるよう心がけ、安心して入居できるよう信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	項目15に同様		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思いをふまえ、適切なサービスが提供されるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活しているという意識を持ち、互いに支え合う関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアに関する困りごと等は、ご家族にも相談し、解決に向けて話し合うよう努め、意識の共有を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居される以前の馴染みの関係が継続されるよう、支援に努めている。	昔遊んだ鎮守の森へ職員が付き添い訪問したり、整髪のために行きつけの理容室へも職員の付き添いで行くことが可能で、自宅近所の方が月に1～2回訪問されている。また敷地内に併設されているデイサービス利用者の訪問もあり、外部との交流も図られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流が円滑に図れるよう常時把握に努め、互いに支え合えるよう援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人を取り囲む環境の一部として関係が継続されるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者本位を心掛け、意向の把握に努め、思いが実現されるよう努力している。	利用者の一日の行動パターンに合わせたケアに心掛け、入浴時間や食事時間も自由に選択することができる。飲酒の要望があれば職員(ノンアルコール)も一緒に楽しみ、料理は、入居者の好き嫌いを把握し、好みに合わせたものが提供されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や入居前の施設等からの情報収集を行い、全職員で共有し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の状態観察、残存能力の把握、微妙な表情の違いやサインを見逃さないよう心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議等で十分に話し合い、本人本位の計画が作成されるよう努めている。	関連施設(ケアハウス・診療所)ケアマネジャー等から情報を収集し、3ヶ月に1回の更新時には家族の要望や職員の観察記録等を重視し、アセスメントが作成されている。総合的な意見を反映させる努力がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会話の内容や行動障害についての症状等を細かく記録し、介護計画書の作成に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズに対応できるよう、常に柔軟なサービスの提供を心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れはしているが、申し込みがない状況である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医との関係を築きながら受診の援助を行っている。	同じ敷地内にある内科医院で定期検査と治療を行い、週1回の往診も行われている。ドクターの自宅も近くにあり、急変した時の対応も問題なく出来ている、またかかりつけ医での診察も職員が付き添い定期的に行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常の早期発見に努め、情報を共有し協力体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換を密に行い、医療連携に努めておる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルについてはご家族と十分に話し合い、よりよい最期に向けて全職員が取り組んでいる。	ターミナルケアについて、利用者家族に説明し同意を得ている。「と」での最期で良かったと思ってもらえるように、職員もターミナルケアに取り組んでいる。病院で診てもらっていた利用者の家族が「と」で看取りたいとの要望があり、要望を受け入れ最期を看取った経験も持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の勉強会等に参加し、全職員が対応できるよう心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内では様々な状況を想定した訓練を行っている。また、事業所内においても月に2回、消防訓練を行っている。	法人全体での災害訓練は、年2回行われ、各施設間の支援体制が確立されている。また、全員ではないが利用者も参加する訓練を月2回行い、職員の連携した動きが再確認されている。なお、通報装置は1・2号館ともに設置され、取り扱い研修も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応等は、常に職員間で確認し合い、利用者の尊厳が損なわれないよう、慎重に行っています。	トイレに行くときに、他の人がいたり、声かけや職員の付き添いを嫌がる利用者には、直接的な言葉は使わずに言葉を選びながら誘導し、後ろから見守るように対応している。職員間でも互いに気付いたことを話し合いながら、工夫されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が気兼ねなく自分の思いを表現できるような関係作りを心掛け、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないよう、柔軟な対応を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室などは本人の行きつけの店に行けるよう支援し、その人らしい身だしなみができるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を生かし、野菜の下ごしらえ等利用者と共に行い、献立も利用者と考えながら食事を楽しめるよう支援している。	家族や職員が持参した季節の食材を、色、バランス、香りや器などに気をつけ、利用者の要望や好み取り入れながら職員と一緒に調理をしている。飲み物は5種類のメニュー中から自由に選ぶことができるように工夫がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量が十分でない時は、本人の嗜好に合わせた物を勧めたり、ゼリーを作って勧めたりと、工夫をしながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアや義歯洗浄剤での消毒等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、利用者の排泄サインを見逃さないよう努め、おむつ排除に取り組んでいる。	利用者一人ひとりの排泄パターンが把握されており、事前の誘導でオムツから通常の下着へと戻った利用者もあり、排泄の自立支援が効果的に行われている。男性の当直者の時には、2号館の女性職員が介助を行うなどプライバシーにも配慮がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化のよい物を勧めたり、水分補給を促しながら、散歩等の軽い運動を行うよう支援し、薬に頼らない排泄ケアを心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間というのは決めておらず、利用者の希望時に合わせて介助できるよう心がけている。	入浴時間は設けてなく、利用者の希望する時間に入浴できている。季節により、バラ、柚子、菖蒲湯が楽しめ、お芝居の見学の際に「がらっば温泉」での入浴も楽しめるなど、多様な支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状況に応じて、休息の時間を設けたり、夜間でも不眠時には一緒にお茶を飲んだりしながら、薬に頼らず入眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容については全職員が把握し、異常の早期発見に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居以前の趣味や習慣が継続されるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限りドライブや散歩等、外出支援を行っている。また、地域の祭りや外食等を企画し、積極的に参加できるよう努めている。	おやつや食材の買い物に同行したり、牛深までのドライブの途中に海岸で休憩をしながらお茶をしたりと、外出にも工夫が見られる。職員のシフトにはゆとりを持たせ、利用者の急な外出の要望にも対応できるようにと配慮がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者一人一人の管理能力に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙には返事が出せるよう支援したり、電話をかけたりと、家族とのつながりが継続できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下、居間等は季節感のある装飾を心掛け、安心できる空間づくりを工夫している。	1号館と2号館の廊下には風の画家「中島潔」の絵と絵本画家の「いわさきちひろ」の透明感あふれる、やさしく包み込むような絵が飾られている。利用者がそれぞれのお気に入りの場所でノンビリとくつろげるような空間が演出されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	パブリックスペース内にそれぞれの落ち着ける空間があり、状況に合わせて工夫しながら居場所作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具を持ち込んでもらったり、昔の写真を飾ったりと工夫し、居心地良い居室作りに努めている。	使い慣れた家具、思い出深い家族の写真を飾ったり、永年外国に暮らし英語を話される利用者には英語での表示をしてある。空調も居室別に調整が出できる。施錠もなく自由に出入りができる居室の布団は毎朝職員の手で収納されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、ホール、トイレ等には手すりを設置し、残存機能を生かしながら自立を促す環境作りを目指している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370700447		
法人名	医療法人社団 開会		
事業所名	グループホーム ると		
所在地	熊本県天草市下浦町2090-7		
自己評価作成日	平成21年11月10日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『最期は自分が住み慣れた場所で。そして自分の好きな事をして最期を迎えたい』この思いから私たちのグループホームはターミナルケアまで取り組んでいます。その場限りのお付き合いではなく、最期を迎える時に「ここ(ると)でよかった」と感じて下さるよう、心のこもったケアを今後も実践していきたいと思えます。  
「ゆったり 楽しく 仲良く」の理念のもと、入居者の方とスタッフが同じ時間の中で支えあいながら穏やかに過ごしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4370700447&amp;SCD=320">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4370700447&amp;SCD=320</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成21年12月10日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったり 楽しく 仲良く」との分かり易い言葉で示し、スタッフ全員が共有できるようにしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元で行われる祭りや行事には積極的に参加しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトに登録したスタッフがいるので今後は地域の方への認知症の理解を深める機会がもてるのではと思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、定期的な運営推進会議の開催を行っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者間での連絡や情報の交換など、密な連携作りに努めています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ同士でお互いの行動が拘束に当たらないかなど確認し合いながら日々のケアにあたっています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事件として取り扱われたケースについてはスタッフ全員で確認し、話し合いの場を設けるようにしています。また日頃より入居者の方の皮膚の変化等についても報告するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	それらの制度について学ぶ機会は設けていないので全スタッフの把握はできていません。しかし今後成年後見制度を活用予定の入居者の方がいるのでこれを機会に勉強の場を設ける事ができればと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	すべての入居者の方のご家族に説明をし同意をいただいています。その際の質問についてもその場で回答することで納得と不安の解消に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の方の意見については日頃の面会時にスタッフが間に入る事で自然な形で聞けるようにしています。意見等があった場合は全スタッフへ周知し話し合いの場を設けています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月管理者を含めたミーティングを行っています。その時には自由な意見が出せるよう管理者からの問いかけや意見の出し合いも行っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己管理シートを活用し各スタッフの仕事に対する目標や頑張り度などを把握できるようになっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修または施設内の勉強会には積極的に参加しています。また研修を受けるスタッフが偏らないようにしたり、研修内容に合わせたスタッフの選出を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に一度、天草地区のグループホームの代表者出席によるブロック会議を行っており、意見交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは本人の話をよく聞き、その方の思いを把握するところからケアの実施にあたっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居当初または、その時々家族の方の思いを聞くようにしており、その思いをケアの中にも取り入れるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々合わせたケアの実践を行い、グループホームの中だけにこだわらず他のサービス利用も含め柔軟な対応ができるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃の生活の場において、入居者の方に方法や意味をお尋ねする場面はよくあります。お互いに支えあいながら暮らしていけるような場面作りに心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方へは面会時に最近の様子をお伝えするようにしています。また身体的・精神的に変化があった場合はその症状を包み隠さず伝える事で現在の入居者の方の様子を共有できるよう心がけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	各入居者の方のこれまでの生活を大切に、把握する事でケアに役立てる事ができると考えています。それらの事が継続できるよう支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	穏やかに暮らせるよう、それぞれの入居者の関係が劣悪にならないよう席替えなども都度行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の方から相談があった場合は適切に対応しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の方一人ひとりの思いは定期的に確認し把握できるようにしています。また日常生活の中からも本人の思いを把握できるように会話を多く持つよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に「人生史」をご家族の方に記入いただいています。またそれ以前のサービス利用歴についても連携をとり把握できています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方一人ひとりのペースで一日をのんびりと過ごしていただいています。またそれぞれの方の残存能力に合わせたお手伝い等をお願いしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンス、およびサービス担当者会議を開催しスタッフおよび家族とも情報の共有を図っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の経過記録はSOAP方式を使い、気付きや会話内容など密に記入するよう常に心がけています。また特に周知徹底したい内容については蛍光ペンにてラインを引き分り易いようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々な情報やサービスなどを利用できるよう、視野を広げるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居時の情報として入手できなかった部分についてはその後の会話内容から把握するよう努めています。得られた情報については日々のケアの中に活用するようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同じ敷地内にある医院(内科)にて定期的な検査と治療を行っています。また他科受診の付き添いも行っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に変化があった場合は気づいた時点で連絡をとり報告をしています。迅速で適切な処置が受けられる連絡体制作りをしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の方の入院時には頻回な面会を行い不安を取り除くようにしています。また入院先の医師や看護師とも情報交換を行い退院の時期についても都度話し合っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルケアを実施している事を家族に説明し同意をいただいています。住み慣れた所で好きな事をしながら最期を迎えられるよう支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの使い方や心肺蘇生の方法など定期的に通学し学習していますが、実践したスタッフは多くありません。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な全体の防災訓練および毎月第1・第3金曜日には日勤帯と夜間帯を想定した火災訓練を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの方に合わせた言葉またはスピードで話しかけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に何かを選択する場面を設けています。(お茶の時間のメニューの選択) それ以外にも入居者の方自身に決定していただくような場面作りを心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	季節の行事や日々の日課など参加する・しないについても入居者の方の意思を尊重し無理強いしないようにしています。拒否があってもしばらくすると雰囲気や途中から参加される場面も多く見られます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの衣類の好みを把握すると共に「今日の洋服(髪型)とってもステキですね」と日頃より声かけし、入居者の方自身が身だしなみに関心を持たれるような場面作りも行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べこぼしが多かったり食事の摂り方が荒い方でも、自分なりの食べ方で食事を楽しめるよう支援しています。また食材の下ごしらえから後片付けまでできる限り入居者の方と一緒にを行うようにしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表をつける事で摂取量の把握を行っています。体調不良やその他の理由で摂取量が少ない場合には本人の好まれるものや栄養補助食品にて不足分を補うようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日に一回、夕食後に確実な口腔ケアを行っています。どうしても拒否がある方の場合は起床後の洗顔と同時に促すことで自然な流れで行えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ外しには皆で取り組んでいます。オムツチェックへの拒否があった方へはトイレでの排泄を促す事で時間毎のチェックができるようになりました。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より野菜を中心とした献立作りを心がけています。また朝食後、希望者の方にはヨーグルトも摂っていただいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	定期的な入浴の声かけも行っていますが、基本的にはご本人の入浴したい時に入らせていただいています。スタッフとマンツーマンでゆっくり入浴を楽しまれています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後からお昼寝をされる方、自分のお気に入りの場所にて過ごされる方など自由に休まれています。移動に介助を要したり意思表示が難しい方へもスタッフからの声かけと誘導でのんびり過ごされています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者全員の処方箋をファイルしており、また一つ一つの薬についてもどのような薬なのか一覧表を用いて把握できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの方に合わせた楽しみごとの支援をしています。全員で何かを行う事もありますが日頃は個別対応を心がけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	スタッフのシフトはゆとりを持って組んでありますので急な外出希望にも応えられるようになっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	いつも財布を入れたカバンを持ち歩かれています方、腹巻の中にお札を入れておられる方、首からカバンをぶら下げておられる方などそれぞれの方法への支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年に2回、年賀状と暑中見舞いのハガキをご家族の方や本人の希望する方に出しています。(ご本人の写真と直筆の文章入り) 電話も本人の希望があればいつでも掛ける事ができます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設全体の造りが認知症介護に適した造りとなっています。 館内には日頃より季節の花を飾るようにし、季節感を出すようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール・廊下など皆が集まる空間には、それぞれの場所にソファを設置しています。皆が集まるホールでは入居者間の人間関係に配慮しながら過ごしていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時に、ご家族の方へ馴染みの家具や品物の持込をお願いしています。本人にとって居心地の良い部屋造りに努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体の造りが認知症介護に適した造りとなっています。 時には施設内の設備にとらわれず一人ひとりに合わせたケアを行えるよう柔軟な考えができるよう努めています。		